

備忘録、洗たく物…

遺品整理業者が見るニッポンの「孤独死」

65歳以上の単身世帯が年々増えるなか、東京都内で年間約5000人もが孤独死している。そんな孤独死の実態をつかんでいるのが、故人の遺品を整理する専門業者だという。

本誌 秋本宏

遺族から提供された遺品を前に供養する(キーンハウス大阪支店)



002年に設立した。現在、東京、大阪、名古屋、福岡の4支店で年々に約2000件の遺品整理を請け負っている。

「孤独死は、賃貸住宅に住んでいる人がほとんど。公団よりも民間の1DK、2Kのマシヨシヤ、アパートの住人に多くみられる」

遺品整理の専門業者「キーンハウス」(本社:愛知県刈谷市)の青山耕三・東京支店長は、こう話す。同社は、佐川急便で経験を つんだ吉田太一社長(44)が、2

(作業員は2人)。2DKで18万円(同3人)、3DKが26万円(同5人)。料金は、部屋の汚れ方などによって変わってくる。特殊な機械を2週間ほど設置しておいを取り除く場合などは、料金 が加算される。

男性の50、60代に多い

依頼の半数近くは東京で、孤独死が多いのは、50、65歳の男性だという。

東京都監察医務院の「07年版統計表及び統計図表」の「一人暮らしの者の死因」によると、一人暮らしで亡くなるのは50、60代の男性が突出して多い。同医務院は、東京23区内で発生した不自然死(死因不明の急性死や事故死など)について、死体の検案、解剖を行い死因を明らかにしている。

06年に一人暮らしで亡くなる

2000件のうち、1900件(95%)が一人住まいで、内訳は900人は病院などで亡くなり、1000人が自宅での孤独死。1000人の7、8割は亡くなって24時間以内に発見されるが、亡くなってから1か月もたつて発見されるケースもあるという。

た50、54歳は、男性258人、女性33人。55、59歳は、同507人、同72人。60、64歳は同529人、同76人。65、69歳は同488人、同117人となっている。50、60代を合合わせると、女性298人に対して男性はおよそ6倍の1782人に及ぶ。孤独死した男性は全体で3379人だから、半数近くが50、60代で占められていることになる。

なぜ、この年代が多いのか。キーンハウス社長の吉田さんは、こう分析している。

「70歳を過ぎると、高齢者として周りがなにかと気に掛けてくれる。『姿が見えないけど、どうしたんだろう』となる。ところが、65歳以下だと、『また、どこかに出掛けたんだろう』という認識でしか見ない。それで、孤独死しても気がつかない」

吉田さんの分析は続く。

孤独死した故人の遺品整理を専門に行う業者は、限られており、キーンハウスは北海道を除く南は九州全域から東北までの孤独死を扱ってきた。

「貴重品」など五つに分類

依頼は葬儀社を経由してることが多い。遺族から遺品整理について相談を受けた葬儀社から持ち込まれるのだ。

同社のシステムでは、遺品は大きく五つに分類される。預金通

帳、実印などの「貴重品」、写真、手紙、趣味などの「思い出品」、布団、洋服などの「衣類品」、たンス、冷蔵庫、洗濯機などの「家具家電品」、冷蔵庫の中身などの「食料品」である。遺族の要望にそって、入念に整理していく。

分類後、「貴重品」と「思い出品」は遺族に渡す。「食料品」は原則、処分する。衣類、家具については一部、引き取る遺族が多い。家電製品は使用できるものはリサイクルに回し、残値は遺族に渡

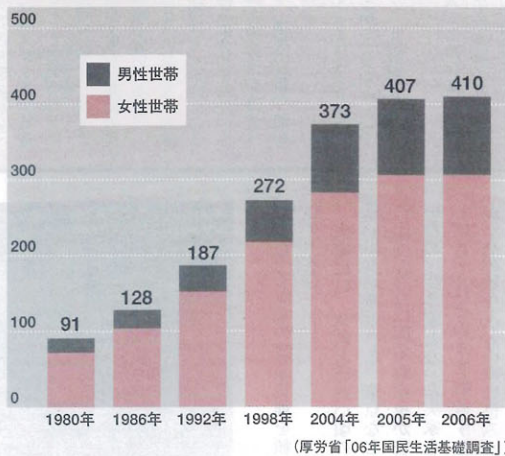
「とくに孤独死が多いのは団塊世代の男性。高度経済成長期に就職し、結婚しないで、わりと無計画に生きてきたタイプに多

い。持ち家もなく、預金もない。仕事をリストラされ、勤労意欲がなくなった男性もいる」

は、生活が崩れていることを感じる人が多いという。

「食事はコンビニ弁当とインスタント食品ですませ、電気製品は壊れたまま。病院にも行かず、薬局で市販の薬を買って服用している。その一方で、高度成長期を担ってきたという自負だけはあり、勝ち負けをとくに意識しているのがうかがえる」

65歳以上の単身世帯数の推移(単位:万)



厚労省の「国民生活基礎調査」によると、65歳以上の単身世帯数は年々増加。80年と06年とを比べると4.5倍。06年は男性の103万4000世帯に対し、女性性は306万8000世帯と3倍になっている(上グラフ参照)。

吉田さんは、こう言う。